

# 探訪 北の風景 64

## 銀の匙の聖地・帯農 防風林 帯広市

青木和弘

防風林は十勝を代表する景観である。北海道立帯広農業高等学校（帯農）の敷地内を通る市道から見る防風林が人気を集め、観光バスで中国や韓国からの旅行者も押し寄せる。

ブームの切っ掛けになったのは、同校出身の女性漫画家・荒川弘（ひろむ）の作品「銀の匙（さじ）」である。国内はもとより、海外からも銀の匙ファンが、聖地・帯農に押しかける。

少年サンデー連載のこの作品は、帯農がモデルの「大蝦夷（おおえぞ）農業高等学校」が舞台。酪農科学科に入った札幌のサラリーマン家庭の男子、八軒勇吾が主人公で、受験競争に疲れ、将

来の夢を見失った勇吾は、高圧的な父との折り合いが悪く、遠く離れた全寮制の高校に行きたいと担任に申し出る。そこで紹介されたのが帯農だった。寮生活から始まる学園ドラマは、活気とユーモアに満ちた青春群像を描きながら、動物の死と向き合う日常や、過酷な農業経営と経済原理の容赦なき仕打ちなど、日本農業を取り巻く苦悩も読者に突き付ける。

もう一つ、NHK朝の連続テレビ小説「なつぞら」にも帯農が登場する。十勝の酪農家に育てられた戦争孤児なつ（広瀬すず）が、デイズニー映画を超えるアニメーターを目指すのだが、青春時代を過ごしたのが、帯農がモデルとされる「十勝農業高校」なのだ。

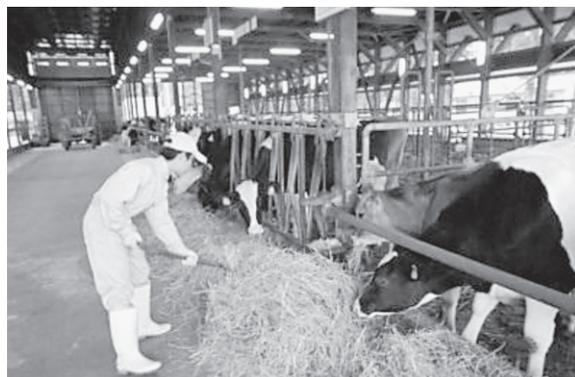
いま、注目の帯農は、1920年（大正9年）設立で、来年100周年を迎える道内屈指の伝統校である。現在学科は農業科学、酪農科学、食品科学、農業土木工学、森林科学の5学科。定員は各40人で、後継者の育成が主目的なので、ほとんどが推薦入試で合格する。一般受験の合格は各料1人か2人という狭き門だ。農業科学と酪農科学は1年生の1年間、食品科学は1年生の4カ月間が寮生活となり、そこで若者はたくましく成長する。

帯農の場所は帯広市街中心部から南へ約5キロ。敷地面積は110ヘクタールで札幌ドームの約20倍だ。畜舎や畑、牧草地、防風林や森林もある

り、高校では日本一の広さだという。

同校の隣に帯広畜産大学があり、両校の連携事業で生徒が細菌学や獣医学など大学の授業に触れることも多い。さらに本年から、同大獣医学部と北大獣医学部が、豚とニワトリの育成施設が整った帯農で臨床授業をおこなうことになり、一層その機会が増えた。

帯広に依田勉三らが率いる静岡県の晩成社開拓団が入植したのは1883年（明治16年）だが、畑作は春先の強風に悩まされてきた。撒いた種が飛ばされ、飛土で農作物の茎葉が傷み、根の露出や埋没などが生育に大きく影響した。明治29年、保安林である幹線防風林の設置が定められ、その後、市町村も農業組合などに苗木代や造成費を補



帯農酪農科学科1年生の寮生活は、交代で朝夕の家畜の世話がある。帯広畜産大学の調査によると「寮生活のおかげで学校生活がよくなった」と思う生徒の割合が、1年生から3年生へと時間の経過に伴って高くなっている＝写真は乳牛実習（帯広農業高等学校提供）



防風林は四季折々、朝夕さまざまな美しい表情を見せる。帯農の防風林は整備されてから90年ほど経っている。そばを市道が通るので、観光バスが停まり外国人旅行者も訪れるが、くれぐれも畑に入らないよう気を付けてほしい



帯広市内にある高橋まんじゅう屋の「大判焼きチーズ」。酪農王国十勝らしいお薦め一品だ（帯広市東1条南5の19の4、電話0155・23・1421）

助したので、昭和10年代には、現在のような防風林が形づくられた。  
帯農の防風林は1936年（昭和11年）9月に昭和天皇が十勝農業学校（現帯農）を視察した際には整備されていたので、90年ほど経っているという。ここは並木のように複線状に植林され、全長約420メートルある。  
十勝の耕地防風林は、農業機械の大型化で作業の妨げになるからと伐採され減少しているが、一方で防風効果が再評価され、植林の動きもあると聞く。しかし、カラマツは5メートル伸びるのに10年ほどかかるから復活には年月が必要だ。十勝の美しい農村風景と農業を守るために、地道な取り組みが必要である。